

# 市場価格高騰に対応する 「昼とくメニュー」

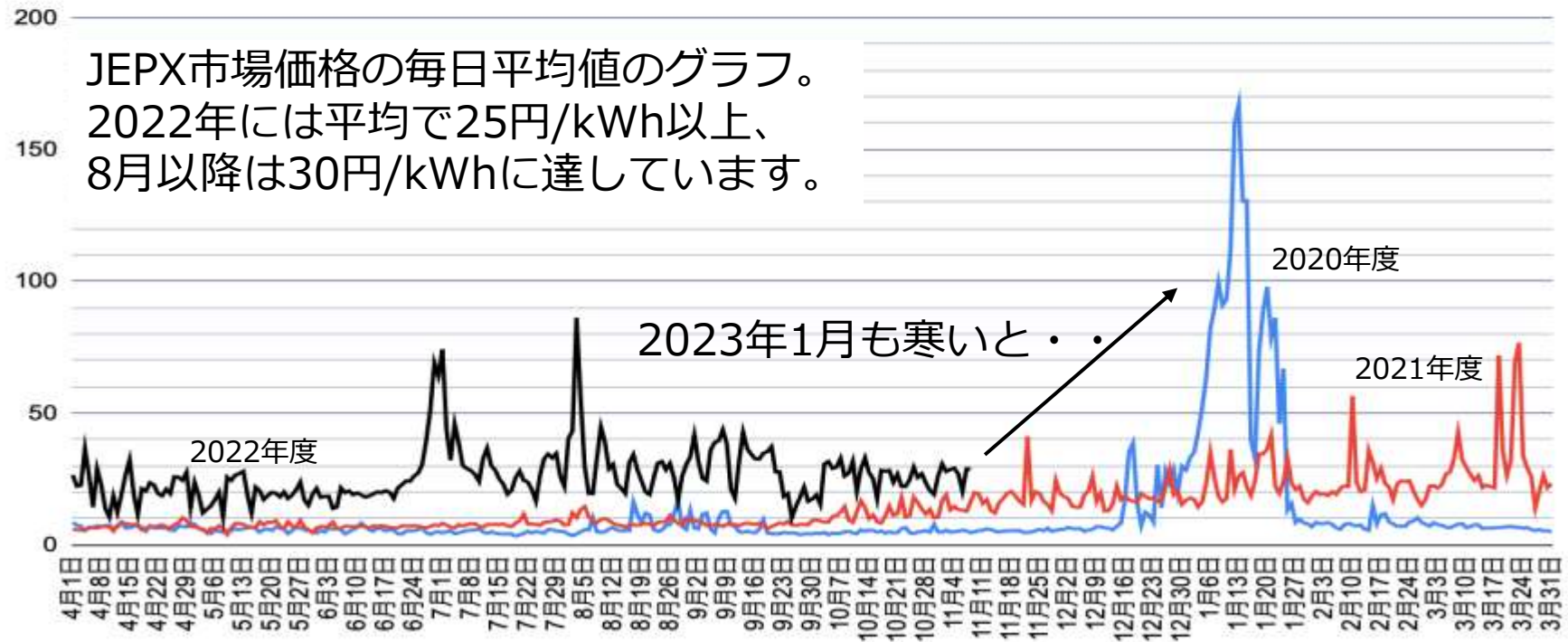
2022年11月

**Green People's Power**

# 市場価格高騰の大津波

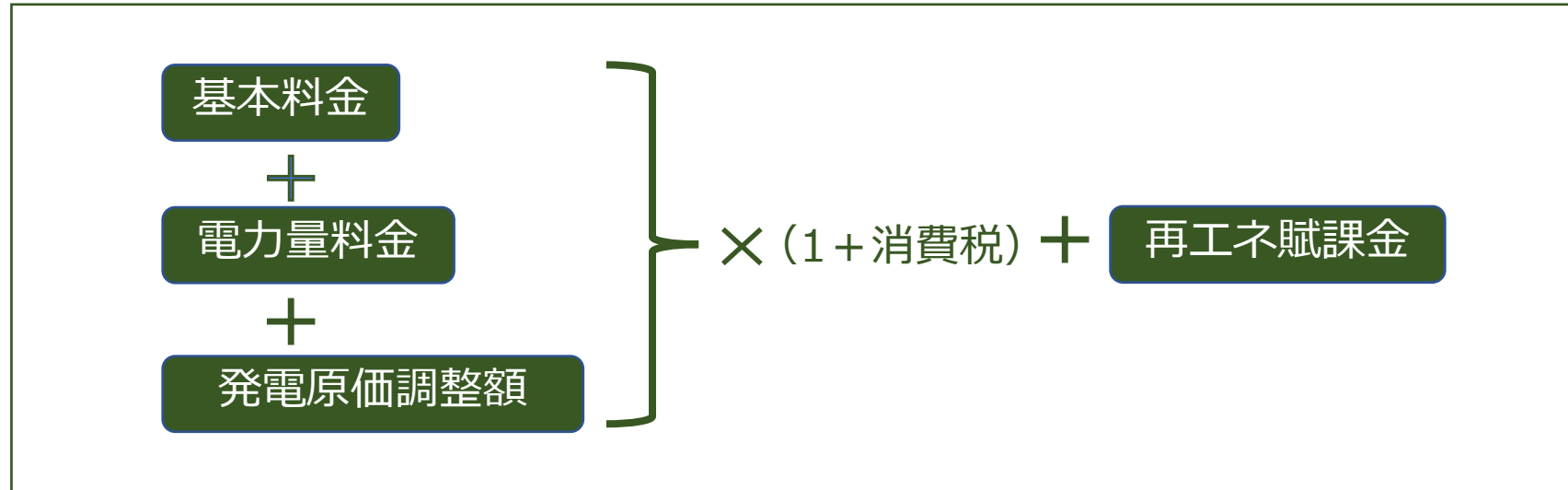
JEPXスポット価格1日平均  
年度ごと（2020年4月1日から2022年11月8日まで）

— 2020年度エリアプライス東京(円/kWh)のAVERAGE — 2021年度エリアプライス東京(円/kWh)のAVERAGE  
— 2022年度エリアプライス東京(円/kWh)のAVERAGE



JEPX市場価格の毎日平均値のグラフ。  
2022年には平均で25円/kWh以上、  
8月以降は30円/kWhに達しています。

# これまでの電気料金の構成

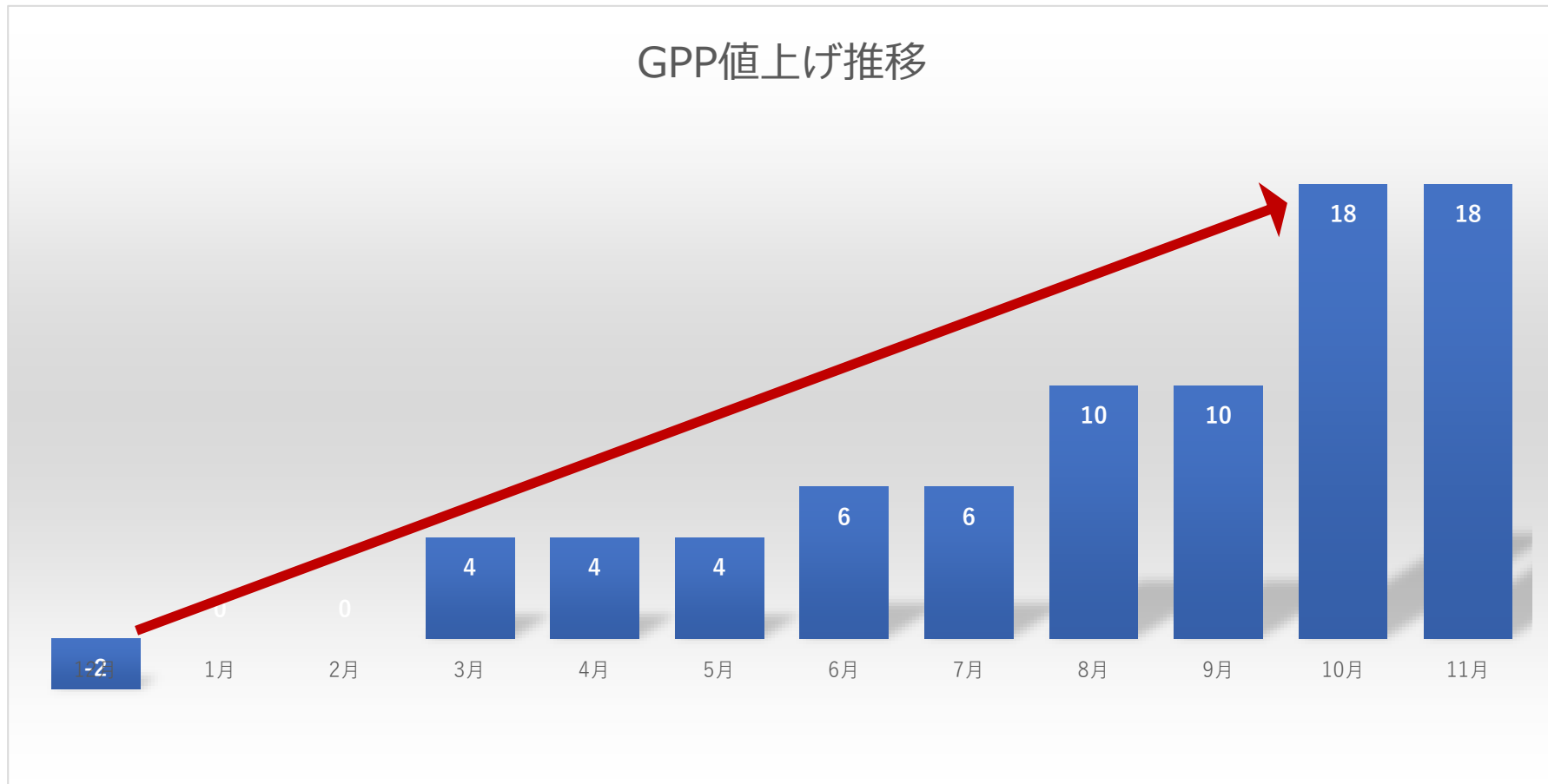


「電力量料金」は、 $(\text{メニュー単価} + \text{託送料金} + \text{経費}) \times \text{電気使用量 (kWh)}$  となります。  
「メニュー単価」は、従量料金B,Cや低圧電力、高圧電力など、それぞれのメニューで決まった単価のこと。

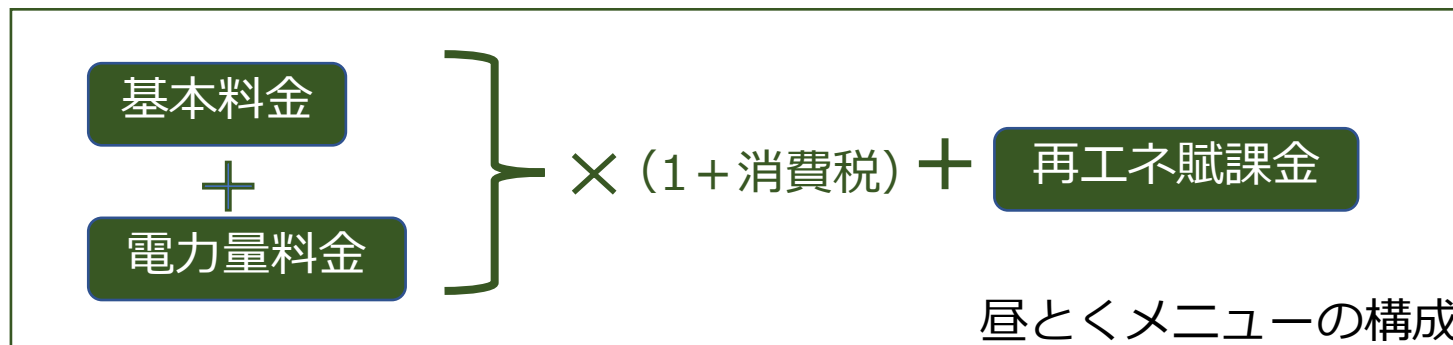
メニュー単価を決めるときの想定仕入れ単価と、現在の仕入れ単価には大きな開きができています。この開き（差額）を「発電原価調整額」を埋めて損失を少なくしてきました。

# 1年間で激しい値上げになりました

想定仕入れ価格（約10円）と市場価格の差が開くことにより、「発電原価調整額」の金額が増えるという形で、値上げになってきました。未来予測ができないため、一度上げた「発電原価調整額」を下げることも困難でした。



# 市場価格に激しく影響されない 電力メニューを考えました。



- 1) 発電原価調整額を廃止します。
  - 2) 電力量料金を仕入れ価格4要素で、毎月計算します。
  - 3) その代わりに、単価は6ヶ月の平均値とします。
- その結果、緩やかな市場価格連動制の「昼とくメニュー」となりました。

# 電気の仕入価格を決める 4 要素

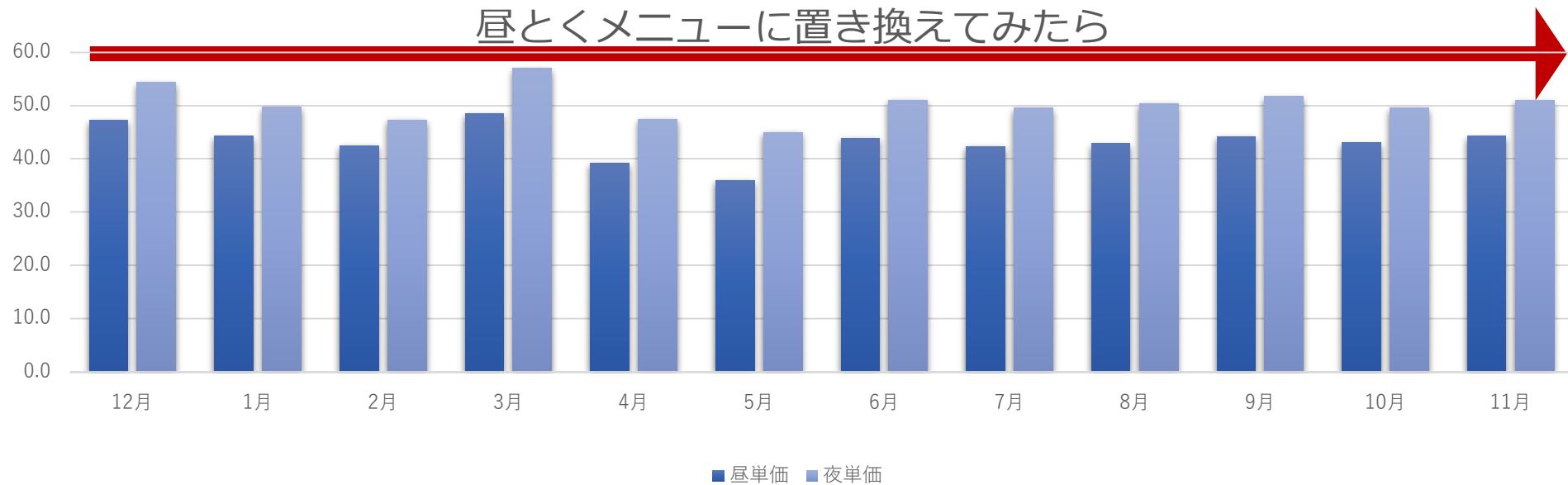
- 1、非FIT再エネからの固定価格（12円/kWh）での調達
- 2、FIT再エネからの「特定卸供給」での調達（市場価格連動）
- 3、市場価格でJEPX（日本卸電力取引所）からの調達
- 4、インバランス料金での補填供給（市場価格以上）

これまでは、FIT再エネ（約50%）とJEPX調達（約40%）で、市場価格での調達が大半でした。そのために、市場価格の激しい変化の影響を直接受け、「発電原価調整額」の繰り返しの値上げになりました。（他社の場合は「燃料費調整額」の値上げとなり、状況は当社と同じです。）

「昼とくメニュー」では、仕入価格4要素の価格を毎月直接反映させるのではなく、過去6ヶ月平均で反映させることにしました。値上げ幅は緩やかになります。

注：FIT再エネは「特定卸供給」という制度のため、仕入価格は「市場価格連動制」とされています。つまり市場で調達したのと同じ価格にされます。

# 1年を通じて、激しく変わらない変動予測になりました。

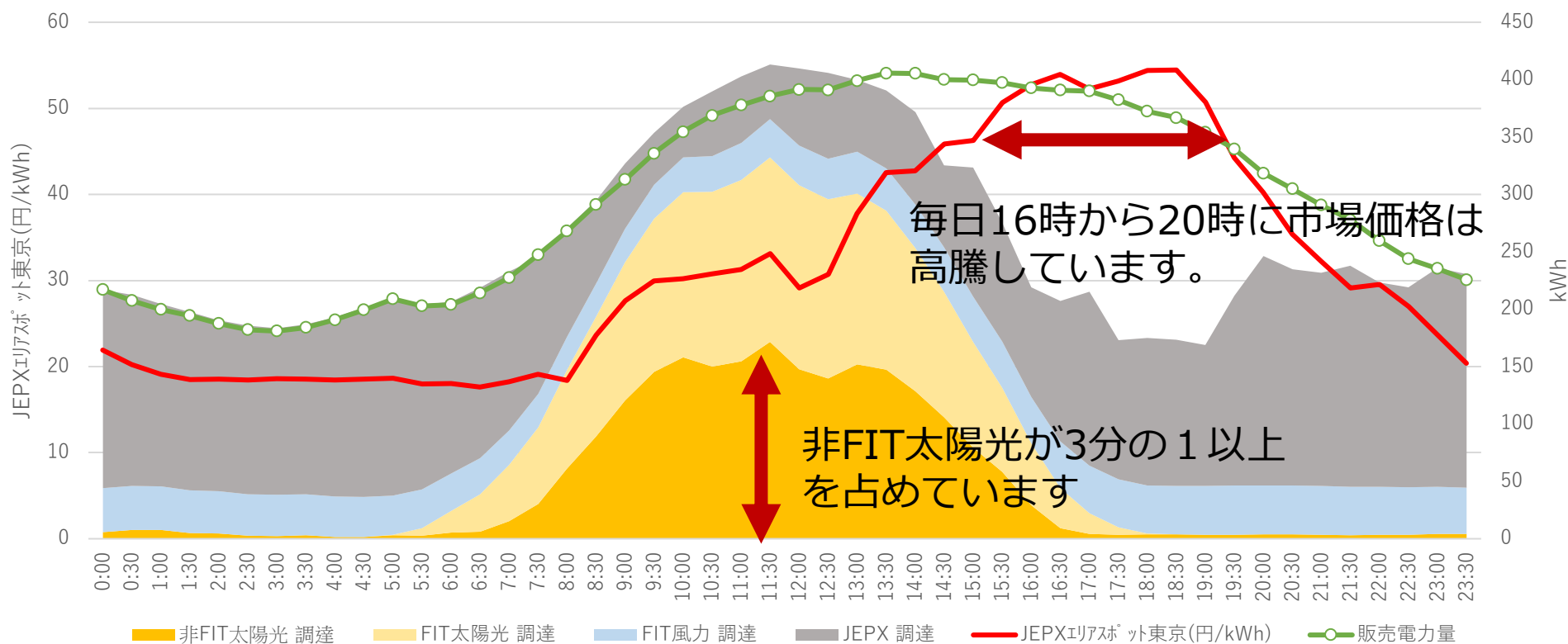


昼とくメニューは価格の安定化をめざします。  
市場価格が上がり続けても激しく変動しません。

# 市場価格は昼と夜で変化します。

市場価格は30分単位で変化します。特に夕方16時から20時の上がり方が激しく、この時間帯の需要を減らすことが、仕入れ価格を下げることにつながります。

1日平均 2022年8月 GPP東京 暫定値

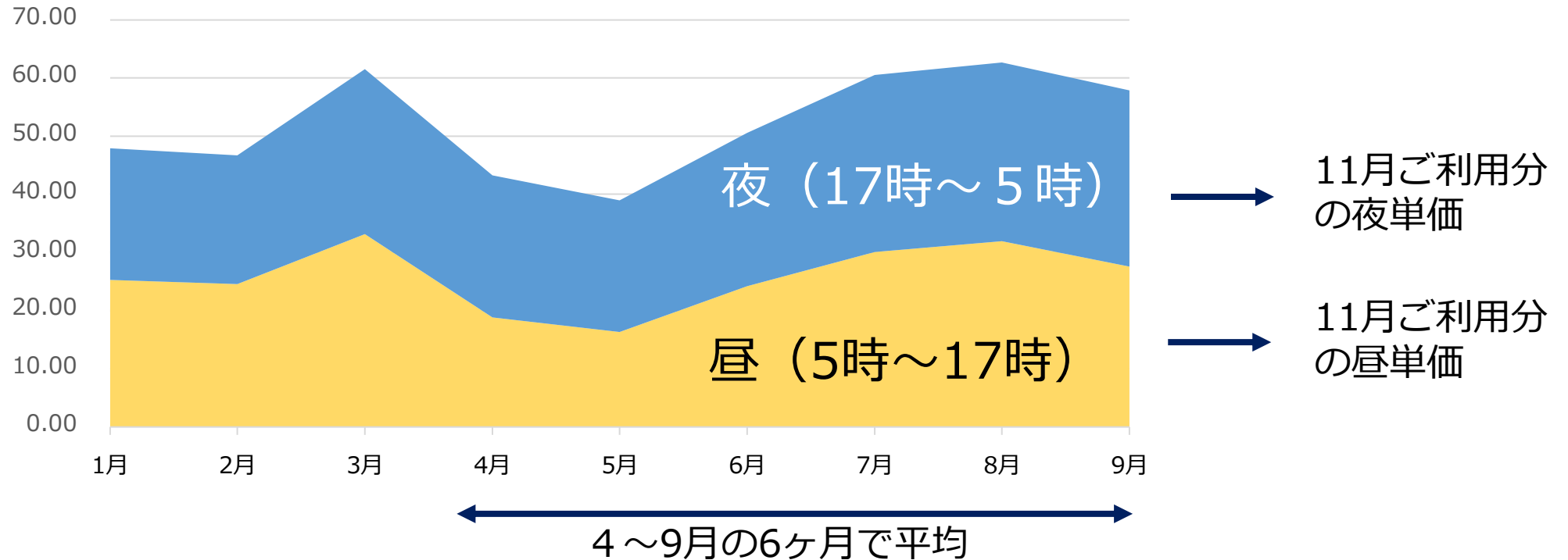


グリーンピープルズパワー作成



# 夜間特に夕方の電気ご利用を控えて いただく「昼とくメニュー」

昼と夜の2段料金



JEPX、FIT、非FIT、インバランス4つの全要素を昼夜別に6ヶ月で平均します。

# 非FITが増えると料金が安くなる

仕入れ価格 4 要素の一つ、「非FIT再エネ」の効果

- 1、非FIT再エネからの固定価格（12円/kWh）での調達
- 2、FIT再エネからの「特定卸供給」での調達（市場価格連動）
- 3、市場価格でJEPX（日本卸電力取引所）からの調達
- 4、インバランス料金での補填供給（市場価格以上）

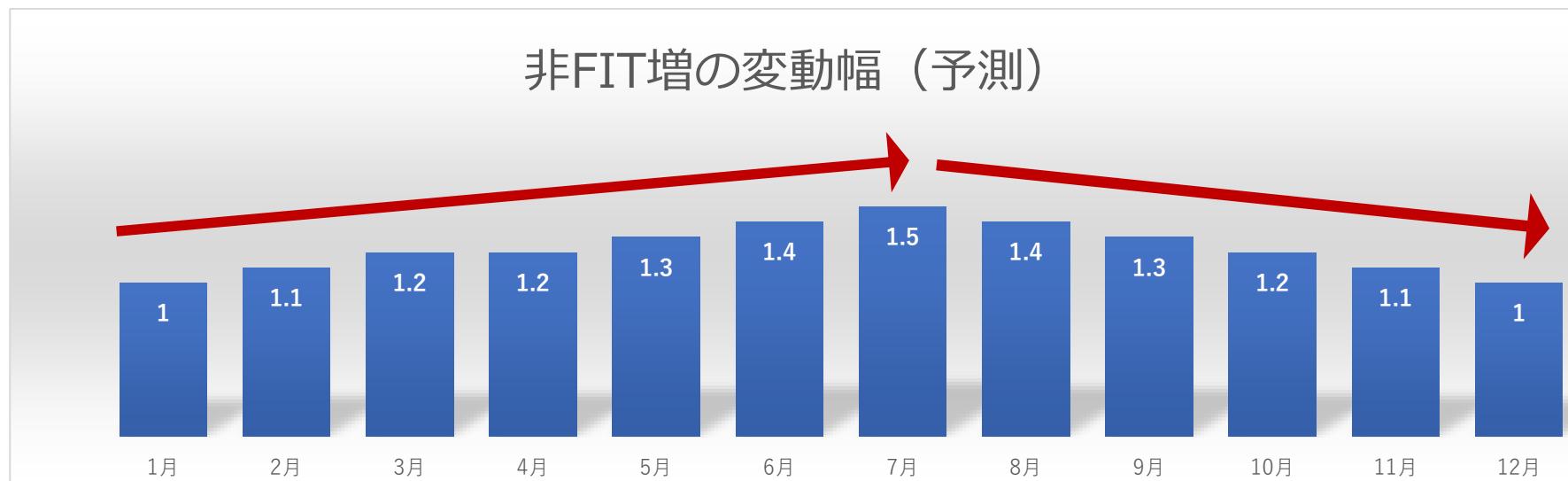
FIT再エネやJEPX調達は市場価格になります。

市場価格に影響されない電気は非FIT再エネです。

すでにお届けしている電気の4分の1は非FIT再エネですが、まだまだ足りません。そこで非FIT風車も含めて調達し、2023年度中に非FIT再エネ100%を目指します。これが「脱FIT・脱市場プログラム」です。

安くなるだけでなく、夢の「再エネ100%電気」になります。

# 非FIT再エネが増えると価格が低下



非FIT太陽光や非FIT風力など、市場価格に影響されない電源からの電気の供給が増えると、仕入れ価格が下がり、結果としてGPPの電気料金が下がってきます。非FITでピーク時の100%を目指します。

# 6、 昼とくメニューのラインナップ

- 1) スタンダードでんき (従量電灯)
- 2) ハイパワーでんき (低圧電力)
- 3) 実量スタンダード (従量電灯実量)
- 4) 実量ハイパワー (低圧電力実量)
- 5) 高圧電力

従量電灯A、B、Cは廃止します。代わって**スタンダードでんき**になります。

基本料金はこれまでの従量電灯と同じで、販売単価が変わります。

低圧電力は**ハイパワーでんき**になります。低圧電力と基本料金は変わらず、販売単価が変わります。

昼とくメニューの導入と一緒に「実量契約」を正規メニューに加えます。

実量契約とは省エネして、使用量を減らすと基本料金が安くなるメニューです。逆に使い過ぎると、基本料金が上がりますのでご注意ください。

**実量スタンダード**のみ、基本料金単価がこれまでより高くなります。ただし、契約容量を下げることで、この値上がりをカバーできます。

**実量ハイパワー**は低圧電力と基本料金は変わらず、販売単価が変わります。

**高圧電力**は、基本料金はこれまでのご契約と変わらず、販売単価のみ変わります。

# では料金はどの程度になるの？

2022年の価格に適用していたら、どうだったかを見てみました。  
1 kWh単価には、再エネ賦課金3.45円も含まれています。

	11月（1 kWhあたり）	12月（1 kWhあたり）
スタンダードでんき_ひる	44.26	47.25
スタンダードでんき_よる	50.92	54.36
ハイパワーでんき_ひる	41.59	44.40
ハイパワーでんき_よる	48.25	51.51
実量スタンダード_ひる	44.26	47.25
実量スタンダード_よる	50.92	54.36
実量ハイパワー_ひる	41.59	44.40
実量ハイパワー_よる	48.25	51.51
高圧電力_ひる	38.27	40.86
高圧電力_よる	44.93	47.96

# 以上が「昼とくメニュー」 の概要でした。

今度の1月にはまだ料金は高いと思いますが、非FIT再エネの導入が増えるにしたがって、料金は安くなっていきます。もうしばらく、我慢していただき、未長くグリーンピープルズパワーとお付き合いください。

(1月からしばらくは、政府からの補助金も入ります。)

**Green People's Power**